

アルプス農営企発第35号
令和7年6月10日

アルプス農協管内 小学校長 殿

アルプス農業協同組合
代表理事組合長 三輪 聡

令和7年度「ごはん・お米とわたし」
作文・図画コンクール作品募集について（ご案内）

時下、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃より、農協事業に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本年も「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの作品募集のお願いのご案内をさせていただきます。

また、応募いただきました図画作品を、アルプス農協で農家へ配布する資料の表紙に掲載させていただいております。保護者の方々におかれましては、作品掲載(可・不可)の確認を各項目記入の上、ご提出くださいます様よろしくお願い致します。

尚、最寄りの支店へ持参していただくか、連絡いただければ取りに伺います。

記

対 象：アルプス農業協同組合 各小学校・中学校

添 付 書 類：令和7年度「ごはん・お米とわたし」

・作文・図画コンクール募集要領

・部門別募集者明細表、応募票

*図画部門に作品掲載（可・不可）記入

作品締切日：9月10日（水）アルプス農協各支店 必着

《問合せ先》

アルプス農業協同組合 営農部 営農企画課

TEL472-5480 FAX473-3333

以 上

令和7年度

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール募集要領

主	催	富山県米消費拡大推進協議会 富山県農業協同組合中央会
後	援	富山県 富山県教育委員会

1. 趣旨

本コンクールは、JAグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、これからの食・農・地域を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作をはじめとする農業についての学びを深めてもらうとともに、子どもたちの優れた作品を顕彰することを通じて、お米・ごはん食・日本食の重要性を広く周知することを目的として実施するもの。

2. 課題（作文・図画両部門共通）

毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米・ごはん食に関しての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現して下さい。

（例）「ごはんとわたし」「ごはんと健康」「楽しい朝ごはん」「学校のごはん給食」「楽しいおすし作り」「うまく炊けるかな」「田植え」など。

3. 応募資格

県内の小・中学校および義務教育学校に在籍する児童・生徒。
県内の特別支援学校の小学部、中学部に在籍する児童・生徒。

4. 応募規格

●作文部門

- 1部 小学校1年生～3年生
(400字詰め原稿用紙2枚以内、またはマス目の大きい原稿用紙で800字以内)
- 2部 小学校4年生～6年生
(400字詰め原稿用紙3枚以内)
- 3部 中学校1年生～3年生
(400字詰め原稿用紙4枚以内)

● 図画部門

1 部 小学校 1 年生～ 3 年生

2 部 小学校 4 年生～ 6 年生

3 部 中学校 1 年生～ 3 年生

B 3 版 (364×515 ミリ)、もしくは四つ切り (380×540 ミリ) の市販画用紙を使用。画材は特に制限しません。

5. 応募規則

- (1) 作品には、1 点ごとに次の事項を記入した応募票をつけてください。つける位置は最後のページの裏面、図画は裏面中央とします。
①作品の題名②氏名・性別③学校名・学年・組④学校の所在地(郵便番号・電話番号)⑤J A 名
- (2) 作文用紙 1 枚目の 1 行目に作品の題名、2 行目に学校名、学年、氏名、3 行目から本文を書き出してください(学校名、学年、氏名が 3 行になる場合は 4 行目から本文を書き出してください)。
- (3) 作文は本人による直筆を原則とし、パソコンなどにより作成した原稿は応募不可とします。
ただし、視覚・手に障害のある児童・生徒については、その旨を特記事項として応募票の欄外に記述した場合のみ、パソコンなどで作成した原稿の応募を認めます。
- (4) 作文・図画とも課題にそった作品を対象とします。
- (5) 応募は本人の未発表でオリジナルの作品に限ります。また、他のコンテストに応募していない作品に限ります。他人の写真や作品を模写・模倣したものは応募できません。著作権、商標権、肖像権など、他者の権利を侵害する作品は応募できません。盗作や不適切な引用があった場合、審査対象外とします。
- (6) ひとりで 1 部門に 2 点以上の応募はできません。
- (7) 合作は応募できません。
- (8) 図画作品でスローガンや文字を入れたポスター的なものや台紙に張ったものは応募できません。※審査基準の詳細は別紙参照。
- (9) 学校で応募の際は、別添の推薦名簿を必ず添付してください。
- (10) 作品に応募することによって、応募作品を JA グループ(後援協賛団体を含む)の広報活動および諸事業活動のために利用することに予め承諾したものとします。その際、作文の部分的な抜き出しや、図画のサイズの変更・トリミングなど一部改変させていただく場合があります。印刷等の都合上、実際の作品と色が多少異なる場合がございます。
- (11) 記入いただいた個人情報、入賞通知・発表や表彰式などのほか、県名、学校名、学年、氏名等の一部情報についてはプレスリリース等のメディアへの発表、JA グループ(後援協賛団体を

含む)の広報媒体(入賞作品集やホームページ等)への露出や作品展示などの広報活動および諸事業活動で公表・使用することがあります。上記および、法令等により開示を求められた場合を除き、承諾なくコンクール関係者以外の第三者に個人情報を提供することはありません。

(12) 作品を応募することによって、上記の個人情報の使用に承諾したものとします。

(13) 入賞通知後でも、当該入賞作品がすでに発表済みやオリジナルでない作品と判明した場合、応募規則への違反や、虚偽の報告が判明した場合は受賞を取り消します。

6. 個人情報

本コンクールの作品応募に際して提供された個人情報は、承諾なく第三者に提供しません。ただし、入賞者については入賞発表や表彰式などのほか、広報媒体への露出や作品掲示などの広報活動で公表することがあります。

7. 締切日

令和7年9月初旬(各JAによって異なります)

※富山県農業協同組合中央会への締切: 令和7年9月19日(金) 必着

8. 賞

審査の結果、とくに優れた作品について、次の区分により賞状と記念品を贈呈します。

(1) 最優秀特別賞(富山県知事賞)

作文・図画部門各1名 計2名

(2) 最優秀賞(富山県教育委員会賞)

各部門・各部 1名 計6名

(3) 優秀賞 若干名

(4) 努力賞 若干名

※応募者全員に参加賞を贈呈します。

※特に優れた作品は、JA全中(全国農業協同組合中央会)主催の第50回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに推薦作品として応募いたします。

※また、学校ぐるみで取り組み、多数の作品を応募している学校または、多数の入賞者を輩出した学校について、作品表彰と別に学校奨励賞を設けてあります。

9. 入賞発表

審査会終了後、入賞校およびJ Aに主催者より通知します（11月中旬頃）。

以 上

作文部門審査基準

“上手な作文”よりも下記の点で“よい作文”を評価する。

1. 課題に沿った作品であること。
2. ごはん・お米に関わる事柄や問題点を、年齢相応に正しく理解しており、かつ、年齢相応の言葉で表現していること（子どもはよく難しい言葉を使いたがるが、年齢に馴染まないものは、好ましくない）。
3. 問題のとらえ方や、考え方が素直であり、かつ自分の意見・感想を率直に述べていること。
4. 自分の生活経験がにじみ出ていること（抽象的、一般的なことのみに終始するものは好ましくない）。
5. 作品全体に希望や明るさが感じられること。
6. 規定の枚数であること。
7. 誤字、脱字がなく、その他の表記（かぎかっこや句読点など）も正確であること（誤字、脱字、添削跡などについては減点の対象になります。必要に応じて、本人に差し戻し、清書させてください）。
8. 作文用紙は1枚目の1行目に作品の題名、2行目に学校名、学年、氏名、3行目から本文を書き出す（学校名、学年、氏名が3行になる場合は4行目から本文を書き出す）。

図画部門審査基準

<主題のとらえ方について>

1. 子どもらしい発想を尊重する。子どもは時流に敏感なので、のびのびした明るく楽しいアイデアがあるものがよい。
2. 理解させるためディスカッションすること。
3. 宿題的な押しつけで描かせないこと。

<基準について>

(次のようなものは審査の対象外になります)

1. ごはん及びお米を主題としていないもの。
2. スローガンや文字を入れたポスター的なもの。
3. おとぎ話や童話をモチーフにしたもの。
4. 漫画やアニメなどのキャラクターを挿入したもの。
5. おむすびやお米に顔や手・足の出ているもの（擬人化したもの）、および実在しないもの（空想やファンタジー性のあるもの）。
6. 石、木片などを貼りつけたもの。
7. 紙の寸法が極端に大きい、または小さいもの。
8. 紙がボール紙のように厚い、または半紙のように薄いもの。
9. 台紙に貼って応募したもの。
10. メーカー名や企業名、ロゴマークなどを使用したもの、および宣伝になる恐れがあるもの。
11. パソコンなどでデジタル的に描かれたもの。

ただし、キャンバスボードに油絵で描いたもの、あるいは石版画、シルクスクリーン、木版、スクラッチボードなどを利用したものは基準内として審査対象とします。

また、いわゆる「切り絵」や「貼り絵」についても審査対象とします。

12. 道路交通関連法規などへの違反が疑われるもの

(例.トラクターの乗車定員オーバー（2 人乗り）、乗車装置でない荷台に乗った姿が描かれたもの など)

令和7年度「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール
部門別応募者明細表(作文部門)・1部

立 学校

※以下の点につきまして、送付前に再確認をお願いいたします。

(取り扱いJA)JA: JAアルプス

(1) 氏名の漢字間違い(例)誤:「高木」→ 正:「高木」

(2) 名前の間違い (例) 誤:「田中 まみ」→ 正:「田中 真美」

·变更点

学年ごとに部を分けたうえで、本明細表を表紙に送付いただきますようお願いいたします。

[illegible]

令和7年度「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール
部門別応募者明細表(作文部門)・2部

(取り扱いJA)JA: JAアルプス

学年ごとに部を分けたうえで、本明細表を表紙に送付いただきますようお願いいたします。

[illegible]

令和7年度「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール
部門別応募者明細表(作文部門)・3部

_____立_____学校

※以下の点につきまして、送付前に再確認をお願いいたします。

(取り扱いJA)JA: JAアルプス

(1) 氏名の漢字間違い(例)誤:「高木」→ 正:「高木」

(2) 名前の間違い (例) 誤:「田中 まみ」→ 正:「田中 真美」

·变更点

学年ごとに部を分けたうえで、本明細表を表紙に送付いただきますようお願いいたします。

[illegible]

令和7年度「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール
部門別応募者明細表(図画部門)・1部

立 _____ 学校

※以下の点につきまして、送付前に再確認をお願いいたします。

(取り扱いJA)JA: JAアルプス

(1)氏名の漢字間違い(例)誤:「高木」→ 正:「高木」

(2) 名前の間違い (例) 誤:「田中 まみ」→ 正:「田中 真美」

·变更点

学年ごとに部を分けたうえで、本明細表を表紙に送付いただきますようお願い

いたします。

[illegible]

令和7年度「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール
部門別応募者明細表(図画部門)・2部

_____立_____学校

※以下の点につきまして、送付前に再確認をお願いいたします。

(取り扱いJA)JA: JAアルプス

(1) 氏名の漢字間違い(例)誤:「高木」→ 正:「高木」
(2) 名前の間違い (例)誤:「田中 まみ」→ 正:「田中 真美」

·变更点

学年ごとに部を分けたうえで、本明細表を表紙に送付いただきますようお願いいたします。

[illegible]

令和7年度「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール
部門別応募者明細表(図画部門)・3部

立 学校

※以下の点につきまして、送付前に再確認をお願いいたします。

(取り扱いJA)JA: JAアルプス

(1) 氏名の漢字間違い(例)誤:「高木」→ 正:「高木」

(2) 名前の間違い (例) 誤:「田中 まみ」→ 正:「田中 真美」

·变更点

学年ごとに部を分けたうえで、本明細表を表紙に送付いただきますようお願いいたします。

[illegible]

令和7年度「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール

《応募票》 図画部門

作品番号			
作品の題名			
フリガナ			性別
姓名	姓	名	男・女
フリガナ			
学校名	立	学校	年 組
フリガナ			
学校所在地			
電話番号			
作品の掲載	可 ・ 不可		
当該JA (農協名)	アルプス農業協同組合		

令和7年度「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール

《応募票》 作文部門

作品番号			
作品の題名			
フリガナ			性別
姓名	姓	名	男・女
フリガナ			
学校名	立	学校	年 組
フリガナ			
学校所在地			
電話番号			
当該JA (農協名)	アルプス農業協同組合		

《応募票》 図画部門

作品番号			
作品の題名	ごはん大好き！！		
フリガナ	ノウキョウ	タロウ	性別
姓名	農協	太郎	男・女
フリガナ	カミイチチョウリツ	〇〇ショウガッコウ	
学校名	上 市 町 立	〇〇小学校	6年 1組
フリガナ	カミイチマチワカスギ3-3		
学校所在地	上市町若杉3-3		
電話番号	076-472-5480		
作品の掲載	☒ 可 ☐ 不可		
当該JA (農協名)	アルプス農業協同組合		

- (注) 1. 必要事項を記入の上、作文および図画作品に貼付(のり付け)してください。(太い枠で囲まれた部分は必ずご記入ください)
2. プリントまたはコピーして作品に貼付してください。
3. 作品番号は記入しないで下さい。

[貼付見本]

裏面 (作文は最後のページ)
応募票



ごはん お米とわたし

作文・図画コンクール

第50回

課題

(作文・図画両部門共通)

毎日のごはんでおいしかったことや
家族とのコミュニケーション、
お米・ごはん食についての思い出や
考えたことなどを素直な気持ちで
自由に表現して下さい。



美味ちゃん © みんなのよい食プロジェクト

作品
募集中!



くしょうこくさん

50th
Anniversary

2025年、ごはん・お米とわたし 作文・図画コンクールは50回を迎えます。

※各都道府県によって実施回数は異なる場合があります

「国消国産(くしょうこくさん)」とは、
自分たちが食べる食材は、できるだけ
自分たちの国でつくるという考え方です。
詳しくは特設サイトからご覧いただけます。



応募・
問い合わせ先

問い合わせ、応募はもよりのJAへ

応募資格

小学校および中学校に在籍する児童・生徒。特別支援学校の小学部・中学部に在籍する児童・生徒。

応募規格

(枚数・大きさ)

【作文部門】

- 1部 小学校1年生～3年生 (400字詰め原稿用紙2枚以内、またはマス目の大きい原稿用紙で800字以内)
- 2部 小学校4年生～6年生 (400字詰め原稿用紙3枚以内)
- 3部 中学校1年生～3年生 (400字詰め原稿用紙4枚以内)

【図画部門】

- 1部 小学校1年生～3年生 (B3判、もしくは四つ切りの市販画用紙を使用。画材は特に制限しません。)
- 2部 小学校4年生～6年生
- 3部 中学校1年生～3年生

賞

内閣総理大臣賞	作文・図画部門各1名	計2名
文部科学大臣賞	各部門各部門ごとに1名	計6名
農林水産大臣賞	各部門各部門ごとに1名	計6名
全国農業協同組合中央会会長賞	各部門各部門ごとに1名	計6名
優秀賞	各部門各部門ごとに15名	計90名
学校奨励賞	内閣総理大臣・文部科学大臣・農林水産大臣各賞受賞者所属校	計14校

※各部門には審査基準がありますので、詳細については上記お問い合わせ先までご連絡下さい。

主催：農業協同組合／都道府県農業協同組合中央会／全国農業協同組合中央会

後援：文部科学省／農林水産省／こども家庭庁／全国都道府県教育委員会連合会／全国市町村教育委員会連合会／日本放送協会(NHK)／全国連合小学校長会／全日本中学校長会／(公社)全国学校図書館協議会／(公社)日本PTA全国協議会／(公社)米穀安定供給確保支援機構

協賛：全国農業協同組合連合会／全国共済農業協同組合連合会／農林中央金庫／(一社)家の光協会／(株)日本農業新聞／全国厚生農業協同組合連合会／(一社)全国農協観光協会

耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ

本コンクールは、みんなのよい食プロジェクトの一環として取り組んでいる事業です。過去の受賞作品は、JAグループHPからご覧いただけます。



「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール

JAグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、これからの食・農を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般についての学びを深めてもらうとともに、子どもたちの優れた作品を顕彰することをつうじて、稲作農業の多面的機能と、お米・ごはん食の重要性を広く周知するために開催しています。



笑味ちゃん ©みんなのよい食プロジェクト

<過去の受賞作品> JAグループHP(<https://life.ja-group.jp/education/contest/>)でもご覧いただけます。

※学年は受賞当時のものです。

図画部門

第47回内閣総理大臣賞



「みんなで稲刈り」

佐賀県 佐賀県立武雄青陵中学校3年
高森 薫さん

第48回内閣総理大臣賞



「力いっぱい炊きあがれ」

埼玉県 狭山市立山王小学校6年
津久戸 花実さん

第49回内閣総理大臣賞



「おこめのさと」

京都府 木津川市立慈仁小学校1年
山岡 彩葉さん

作文部門

第49回内閣総理大臣賞

「当たり前のご飯のありがたさ」

青森県 青森市立浦町中学校2年

若宮 遙希さん

小学校三年生の冬、僕が人生で初めてお米を研いだ日、弟が入院した。当時の僕は、父の転勤先である仙台市に住んでいた。小学校一年生の弟は母親に注意されながらも、寒い冬の中、毎日短パンで登校していた。そんな日々が続いていた時、弟は突然高熱を出し、病院に行くことになった。病院は親が二十四時間付き添う必要があった。

児童館のお迎えに間に合わないという連絡が入ったようで、僕は一人で児童館から家に帰った。誰もいない家の鍵を一人で開け、真っ暗な部屋に電気を付け、わざと大きな音を出してテレビをつけた。病院から一旦帰ってきた母に、

「僕にできること何かある？」と聞くと、

「お米研いでくれたら嬉しいけど...」

「うん、できるよ！」今、思えばなぜでと言ってしまったのだろうか。忙しい母と苦しんでいる弟の為に何か僕にもできることがないだろうかと思っていたからだろう。

「ありがとう。助かる」と言い残し、慌ただしく買い物に行ってしまった。当時、スマホもなく自分で調べることもできなかった僕は、母のお米を研いでいる姿を思い出し、研ぐことにした。

お米はカップに三回分(三合)家庭科で「すりきり一杯」を習う前の当時の僕は、適当に山盛り三回分のお米を取り、そのお米と水を釜に入れ、研いでみた。母の研ぐような「ジャツ、ジャツ」という音がしない。水が多すぎると気づき、ジャツと水を捨てたら、お米も勢いよくたくさん出てきてしまった。今度は少なめの水で研いでみると「ジャツ、ジャツ」という音になり安心した。一体これは何回やるのだろうか。とにかく何度か研いで水をを入れて、捨てて研いでを繰り返した。三十分は経つただろう。十回以上やっても水には少し白い色がついてくる。(これはいつまでやるのかない)いつまでも少し濁る水を見て、真冬の台所で冷たい水で手が真っ赤になり、水を流す度にこぼれていくたくさんのお米を見ながら、僕の目からも涙がこぼれた。

母がやっと買い物が戻り、僕の姿を見た時、僕の冷たい手を母は両手で包んでくれた。「ありがとう、めいね」と泣きながら包んだ母の手も僕と同じくらいに冷たかった。なぜ、母は泣いているのだろうか。もしかして、弟の具合が悪いのだろうか。怖くて聞けないまま、頭の中でぐるぐる考えていた。

「ちゃんと教えてなかったのに、よくできたね。さ、炊けるまでの間にお風呂に入って。母が買ってきたそうざいと僕の初めて炊いたご飯で食べた二人だけの晩ご飯。いつも父といるさい弟がいる食卓が今日はシーンとしている。お米はいつもより固くおいしくなかったが、母は「おいしくできたね」と言った。ご飯がおいしくなかった理由は他にもあることは当時の僕でもわかっていった。

弟の入院は七日目に突然終わった。入院中だった青森の祖母が亡くなったのだ。弟の病院に事情を説明し、安静にすることを条件に慌ただしく退院し、青森に向かった。祖母の死に目に会えなかった僕は、疲れと悲しみでいっぱいだった。こんなに悲しい時でもお腹は減った。誰かが用意してくれていた塩おにぎりを食べた。こんな時でもおにぎりをパクパク食べている弟を横目で見ながら食欲が出た弟を見て嬉しく思った。久しぶりに家族揃って食べたおにぎりはとてもおいしかった。家族四人が当たり前ではなかった七日間を経て、当たり前に食べられるご飯のありがたさとおいしさを知った。

今は時々手伝いでお米を研ぐ。お米を研ぎながら、僕は当たり前のご飯のありがたさを時々思い出している。これからもおいしいご飯を毎日食べられますように。

応募総数

第49回「ごはん・お米とわたし」
作文・図画コンクール

作文部門:27,609点 図画部門:41,104点

第50回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール 全国審査会／表彰式日程

【全国審査会】 作文本審査会:2025年11月11日(火)
図画本審査会:2025年11月14日(金)
会場:JAビル(東京・大手町)

【表彰式】 日時:2026年1月10日(土)
会場:日経ホール

